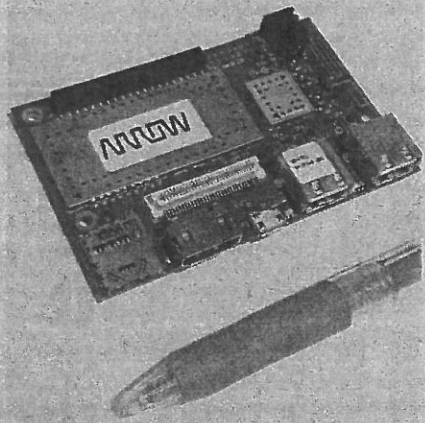


IoT向けCPU

クアルコム アローと代理店契約

米半導体大手クアルコムがネットにつながる「IoT」の機器向けに米ア



クレジットカードサイズの小型モジュールにクアルコムの高性能CPUを搭載

ムは14日、あらゆるモノ「IoT」の機器向けに米アローグループと販売代理店契約を結び、日本国内で自社CPU（中央演算処理装置）の販売を始め、クアルコム主力の高性能CPU「スナップドラゴン」シリーズを監視カメラや産業機器、医療機器、ウェアラブル端末などを扱うメーカーに供給する。アローは売上高2・5兆円規模の半導体・電子部品商社の世界大手。国内事業会社のアロー・ユナイテッド（東京・港）が大口顧客、ネット通販専門のチップワンストップ（同）が個人顧客向けに1個単位から

CPUを提供する。

クアルコムはスマートフォン（スマホ）向けの省電力CPUで高いシェアを握り、売上高253億ドル（約2・6兆円）を誇る半導体大手。ただスマホの市場が成熟し始めたため、新たな成長市場としてIoT分野に打って出る。多種多様な端末

・機器に半導体が使われる裾野の広いIoT市場で、効率的に顧客開拓できるように世界的な販売網を持つアローと独占的な代理店契約を結んだ。

同日都内で記者会見したクアルコム日本法人の須永順子副社長は「これまでの直販では壮大なIoT市場にリーチできない」と危機感を表明。従来の直販営業を見直すことを「IoT市場に参入する決意表明だ」と位置付ける。アロー日本法人の高乗正行社長は「スマホと異なり産業機器などには長期のサポートが必要。我々が供給と技術サポートを担っていく」と話した。